



ふしこ

ホームページアドレス <http://www.fushiko-e.sapporo-c.ed.jp/>

札幌市立伏古小学校
学校だより
特別号
平成30年(2018年)
10月26日

平成30年度全国学力・学習状況調査結果概要及び改善の方向等について

4月に行いました6年生対象の全国学力調査の結果が出ましたので、本校の調査における概要と課題・改善の方向についてお知らせいたします。

【国語科】

本校の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題（A）

「話すこと・聞くこと」

- ◆全国平均の正答率とほぼ同程度であるがやや下回っている。
 - ・図書館への行き方の説明として適切なものを選択する問題において、全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「書くこと」

- ▼全国平均の正答率に比べ下回っている。
 - ・物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する問題において全国平均の正答率に比べ下回っている。

「読むこと」

- ▼全国平均の正答率に比べ下回っている。
 - ・『くらやみの物語』を読んで心に残ったことを一文を取り上げて説明する際に、その一文が心に残った理由として適切なものを選択する問題において全国平均を下回っている。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

- ◆全国平均の正答率とほぼ同程度であるがやや下回っている。
 - ・適切な敬語の組合せを選択する問題において全国平均を下回っている。

【区分及び領域】

主として「活用」に関する問題（B）

「話すこと・聞くこと」

- ▼全国平均の正答率に比べ下回っている。
 - ・【話し合いの様子の一部】における発言の意図として、適切なものを選択する問題において全国平均を下回っている。

「書くこと」

- ▼全国平均の正答率に比べ下回っている。

「読むこと」

- ▼全国平均の正答率に比べ下回っている。

今回の調査における課題

- 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと。
- 自分の想像したことを物語に表現するために文章全体の構成の効果を考えること。
- 登場人物の心情について、情景描写を基に捉えること。
- 相手や場面に応じて適切に敬語を使うこと。
- 話し合いの参加者として質問の意図を捉えること。

改善の方向

- ◎相手や目的に応じて説明の仕方を工夫する活動の充実
 - ・クラブ活動について下級生に説明したり、隣のクラスの友達に調べたことを説明したりするなど、相手を意識して話す場を充実させていく。
- ◎物語の構成の工夫や効果を捉えて書く活動の充実
 - ・読むことの指導と関連させながら物語の効果的な構成例を知り、どのような構成にすることが効果的なのかを考えて書かせる指導を充実させていく。
- ◎登場人物の心情について、情景描写を基に捉える活動の充実
 - ・作品の中で心に残った叙述を取り上げ、その叙述が表すイメージや作者のメッセージについて考える活動を充実させていく。
- ◎相手や場面に応じて適切に敬語を使う活動の充実
 - ・地域の人や保護者などに関わる学校行事などにおいて、相手と自分との関係を意識しながら敬語を使うことを意識し、話をしたり、案内の手紙を書いたりする活動を充実させていく。
- ◎話し合いを観点に沿って振り返り、参加者や司会者の役割を整理する活動の充実
 - ・役割に応じて、目的や意図を意識しながら話し合い活動を行い、事後に話し合いを振り返る活動を取り入れていく。

本校の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題（A）

「数と計算」

◆全国平均の正答率とほぼ同程度であるがやや下回っている。

- ・針金1mの重さを求める式を選ぶ問題において、全国平均より下回っている。
- ・答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ問題において、全国平均より下回っている。

「量と測定」

◆全国平均の正答率とほぼ同程度であるがやや下回っている。

- ・二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ問題において全国平均より下回っている。

「図形」

▼全国平均の正答率に比べ下回っている。

- ・円周率を求める式として正しいものを選ぶ問題において全国平均より下回っている。

「数量関係」

▼全国平均の正答率に比べ下回っている。

- ・200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ問題において、全国平均より下回っている。

【区分及び領域】

主として「活用」に関する問題（B）

「数と計算」

▼全国平均の正答率に比べ下回っている。

- ・横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く問題において、全国平均の正答率を下回っている。

「量と測定」

▼全国平均の正答率に比べ下回っている。

- ・合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見い出すことができる図形として、正しいものを選ぶ問題において、全国平均の正答率を下回っている。

「図形」

▼全国平均の正答率に比べ下回っている。

- ・一つの点の周りに集まった角の大きさの和が 360° になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く問題において、全国平均の正答率を下回っている。

「数量関係」

▼全国平均の正答率に比べ下回っている。

今回の調査における課題

- 1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることを理解していること。

- 小数の除法の意味について理解していること。

- 単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解していること。

- 円周率の意味について理解していること。

- 百分率を求めることができること。

- 直線の数とその間の数の関係に着目し、示された方法を問題場面に適用できること。

- 図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述できること。

- 合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見い出すことができること。

改善の方向

◎問題場面を的確に捉え、数量の関係を図や数直線などに表す活動の充実

- ・数直線などを用い、数量の対応関係や大小関係を的確に捉えることができるようにしていく。

◎数量の関係を適切に捉え、立式する活動の充実

- ・乗法や除法の問題場面を複数提示し、それぞれの場면을図や数直線などに表すことで、割合に当たる大きさを表す場合は乗法、1に当たる場面には除法が用いられることを理解できるようにしていく。

◎円周率が、円周の直径に対する割合であることを理解できるようにする活動の充実

- ・身の回りにある、円の形をしたものについて、円周の長さや直径の長さを測定し、その割合を調べるなど、作業的・体験的な活動を通して円周率が円周の直径に対する割合であることを理解できるようにしていく。

◎百分率の意味を理解し、確実に求めることができるようにする活動の充実

- ・基準量を100とし、それに対する割合で表す方法が百分率であることが分かるように、問題場面を図や数直線などに表し全体を捉える場面をより多く取り入れていく。

◎数量の関係を発展的に考察し、数学的に表現することができるようにする活動の充実

- ・例えば九九表で縦や横に並んでいる数や斜めに並んでいる数に条件を変えて着目したり、法則性から表に書かれていない数を想定したりして、児童自らが発展的に考えていける場を多く設けていく。

◎図形の構成要素や性質を基に、事柄が成り立つことを説明することができるようにする活動の充実

- ・例えば合同な正三角形が敷き詰められた模様を見て、「点の周りに集まった角の個数は6個で、『 60×6 』の式が成り立つ」など、図形と式とを結び付けて考えさせていく。

本校の概要

【区分及び領域】

「物 質」

- ◆全国平均の正答率とほぼ同程度であるがやや下回っている。
- ・海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ問題において、全国平均の正答率を下回っている。
- ・食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ問題において、全国平均の正答率を下回っている。

「エネルギー」

- ▼全国平均の正答率に比べ下回っている。
- ・風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ問題において、全国平均の正答率を下回っている。
- ・回路を流れる電流の向きと大きさについて実験結果から考え直した内容を選ぶ問題において、全国平均の正答率を下回っている。

「生 命」

- ▼全国平均の正答率に比べ下回っている。
- ・鳥の翼と人の腕のつくりについてのまとめから、どのような視点を基にまとめた内容なのかを選ぶ問題において、全国平均の正答率を下回っている。

「地 球」

- ▼全国平均の正答率に比べ下回っている。
- ・流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ問題において、全国平均の正答率を下回っている。
- ・一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く問題において、全国平均の正答率を下回っている。

今回の調査における課題

- より妥当な考えをつくりだすために、二つの異なる方法の実験結果を分析して考察できること。
- 物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを、食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できること。
- 乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できること。
- 実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善できること。
- 調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析できること。
- 堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解していること。
- より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できること。

改善の方向

- ◎複数の実験結果を分析し、より妥当な考えを作り出すことができるようにする活動の充実
 - ・課題を解決するため実験を開始する前に、それぞれの方法について予想に基づいた結果の見通しをもち、それをクラスの中で共有していく活動を通し、多面的に分析し、考察することができるようにしていく。
- ◎学んだことを自然の事物・現象に適用できるようにする活動の充実
 - ・視覚的に捉えられない食塩水に溶けた塩の量を、重さを測って調べる学習を応用し、ジュースや砂糖水に溶けた物質を測って調べるなど、既習を生活に生かしていく活動を取り入れていく。
- ◎実験結果を基にして、より妥当な考えに改善できるようにする活動の充実
 - ・実験をする前に実験結果を予想し、実験から得られた結果を照らし合わせることで、予想通りなら自分の予想が妥当であったと判断ができ、不一致の場合は予想や実験方法などを見直し、より妥当な考えに改善できるようにする。
- ◎問題に対応した視点で分析できるようにする活動の充実
 - ・課題をしっかりと把握しているのかどうかを確認したり話し合ったりするなどして、問題把握をしっかりとできるようにしていく、更には、調べた結果の中から、「問題に対応した考察に必要な情報は何か」という視点で選択、整理して考察できるようにしていく。
- ◎科学的な言葉や概念を理解することができるようにする活動の充実
 - ・例えば「浸食」「運搬」「堆積」といった科学的な言葉を使って説明させる学習活動を行うなどして、科学的な言葉や概念を理解できるようにする。